

國學院大學學術情報リポジトリ

國學院大學図書館等蔵『伊勢物語』関係資料書誌・略解題

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 笹川, 勲 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000643

國學院大學図書館等蔵『伊勢物語』関係資料書誌・略解題

笹川 勲

はじめに

本稿は、國學院大學図書館および文学部資料室（以下、本学図書館等）が所蔵する『伊勢物語』関係資料についての書誌と略解題である。『伊勢物語』は、『古今和歌集』や『源氏物語』とならんで、日本古典文学における「正典」^{カクシ}として享受され続けた歴史がある。そのため写本や版本のみならず、註釈書や絵本、絵巻も多く作成されてきた。その点を鑑みて、本稿においても「一 写本、古筆切」、「二 版本」、「三 註釈書」、「四 絵本、絵巻」の四項目を立てることとした。本稿の目的は、本学図書館等所蔵の『伊勢物語』関係資料の総体を明らかにすることにある。そのため、他の文献、論文等において紹介された資料であつても採りあげることとした。

【凡例】

一 本稿は、國學院大學図書館等が所蔵する『伊勢物語』関係の資料についての書誌および略解題である。

- 二 資料全体を、便宜上、【一 写本、古筆切】、【二 版本】、【三 註釈書】、【四 絵本、絵巻】に分けた。
- 三 各項目内の配列は、國學院大學図書館等の函架番号順を原則とし、貴重書、準貴重書の順に掲げる。
- 四 書誌情報は①法量、②装幀、③書写・刊行年代、④料紙、⑤略解題等の各項目とする。
- 五 本学図書館のデジタルライブラリーにて公開されているものについては、都度、明記した。
- 六 本稿の執筆にあたっては、平成二十三年度に行われた、國學院大學学びへの誘い「伊勢物語絵の世界」のため、筆者が調査、作成した書誌や解題のデータを含む。

【一、写本、古筆切】

一 伊勢物語²

- ①縦二五・二纏 横十七・二纏。②綴葉装一帖。表紙は青色地寿の字宝尽模様の緞子。③室町時代後期。④斐紙。⑤武田祐吉博士の旧蔵。書写者は不明。藤原定家が校訂した『伊勢物語』には、根源本、天福本、武田本の三系統があるが、本書は武田本の本文と奥書を持つ。天福本との校異を朱で、詳細に書き入れてある。本学図書館デジタルライブラリーにて公開中。
- （貴九二三）

二 伊勢物語

- ①縦二五・三纏 横十七・〇纏。②綴葉装一帖。表紙は灰青色の厚様。朱色地に金彩で萩を描いた題簽が貼られている。③室町時代後期。④斐紙。⑤本文冒頭には、「賜架書屋蔵」の朱色蔵書印が捺される。「賜架書屋」は、紀州徳川家の蔵書からなる「南葵文庫」の主事を務めた書誌学者高木文氏の蔵書を指す。巻末には天福本の奥書の他、追書と

れた根源本第二系統と武田本の奥書、業平や二条后等の伝記と難語註がある。

(貴一六二)

三 伊勢物語

①縦二五・〇糎 横十七・七糎。②袋綴五ツ目装一冊(改装跡あり)。表紙は青色地無地艶出。③江戸時代初期。④楮紙。⑤卷末に業平、行平、有常、二条后、源融各人の伝記、万葉集、古今和歌六帖の引用、宋玉「神女賦」、曹植「洛神賦」、天福本奥書、「別本奥書」として武田本奥書、「又別本奥書」として根源本の奥書が附載される。本文には朱筆で、句読、濁点、校異が付される。章段数も朱で記されるが、途中、抜けている箇所や墨書で記された箇所も見られる。行間には勘物註記がある。上欄を中心には水濡れによると思われるシミが存する。

(貴二六七)

四 伊勢物語

①縦二二・八糎 横十六・九糎。②綴葉装一帖。表紙は砥粉色地十字文様の緞子。③室町時代後期。④斐紙。⑤寛永八年に書かれた識語によると、初段から七七段の途中までは「陽光院誠仁太上天皇の御筆」になるとある。誠仁親王は、後陽成天皇の父で、死後、太上天皇の尊号を追贈された。小説家渡辺霞亭、国文学者吉沢義則の旧蔵にかかる。

(貴二九二七)

五 伊勢物語

①縦二六・一糎 横十八・一糎。②綴葉装一帖。表紙は香色無地艶出。③室町時代後期。④厚手の楮紙。⑤内題外題ともになし。奥書もなし。「小泉修理亮」なる人物の旧蔵と思量される。傷みがやや激しく、修補の跡が目立つ。

(貴二一九八)

六 伊勢物語

①縦二六・〇糎 横二〇・七糎。②袋装五ツ目綴一冊。表紙は代楮色地艶出簾目文様。③室町時代後期。④楮紙。⑤奥書や識語はない。行間に多量の註記がある。虫損がやや目立つ。
(貴二四八三)

七 伊勢物語

①縦二二・六糎 横十七・七糎。②袋綴装一冊。表紙は鳥の子色地の厚様に、金銀箔砂子散らし。地紋が刷られている。③室町時代後期。④斐楮混漉。⑤虫損の修補が全体になされている。卷末には、根源本第二系統および武田の本奥書の他、享祿三年十一月の山崎宗鑑の書写奥書がある。天保八年六月、古筆見の檜山成徳が鑑定をした賞簽(鑑定書)が付属する。
(貴二四九三)

八 伊勢物語

①縦二六・二糎 横十六・四糎。②綴葉装一帖。表紙は本文共紙。③室町時代後期。④斐紙。⑤内題はなし。外題に「伊／伊勢物語」とある。朱の書人が多く、章段数、句読、和歌への合点の他、朱書、墨書の傍記も相当数見られる。本奥書はないものの、天文十八年八月九日に、「正阿」なる人物が書写したとする書写奥書がある。
(貴三五五四)

九 伊勢物語

①縦二一・五糎 横十四・四糎。②綴葉装一帖。表紙は本文共紙。③室町時代後期。④斐紙。⑤一面九行で和歌は二字下げ。墨付七〇丁。全体に朱筆で、合点、句読点、濁点、校異、振り仮名を施す。武田本の本奥書をもち、「明応

三年卯月上旬」の書写奥書がある。第六九段の「君やこし…」歌と「かきくらす…」歌を欠く。(貴二五五九)

十 いせもの語

①縦二七・四糎 横十八・六糎。②袋装四ツ目綴一冊。表紙は無地薄水色。③室町時代後期。④斐楮混漉。⑤八代国治氏の旧蔵。本文は一面十行。和歌は二字下げ二行分かち書き。奥書は無いが、天福本系統の本文と思量される。永正十四年七月二八日に、三条西実枝が書写したもので、全体の行間に漢字と片仮名で多くの註が書き込まれている。本学図書館デジタルライブラリーにて公開中。(091.2/913.32/Sa64)

十一 伊勢物語

①縦二三・六糎 横十五・七糎。②袋装四ツ目綴一冊。表紙は無地濃茶色。③室町時代末期。④楮紙。⑤墨付九十丁で、本文は一面七行書で、和歌は二行分かち書き。朱の書人が多く見られる。武田祐吉博士の旧蔵。室町時代後期の書写とされるが、書写奥書がないため詳細は不明。本奥書もないが、本文は天福本系統に類すると思量される。本学図書館デジタルライブラリーにて公開中。(091.2/913.32/1)

十二 いせものがたり

①縦二三・四糎 横十七・五糎。②袋装四ツ目綴一冊。表紙は薄茶色紗綾形文様。③江戸時代後期。④料紙は斐楮混漉。武田祐吉博士の旧蔵で、墨付七八丁。本文は一面九行書で、和歌は三字下げ二行分かち書き。胡粉による塗抹が多く見られる。本奥書はなし。嘉永三年春に、尾張の人外山剛健がこの本を求め、翌嘉永四年の冬、現在の体裁にし

た旨の識語を有する。本文は天福本系統と思われるが、ままた武田本系統の本文や誤脱も見られる。本学図書館デジタルライブラリーにて公開中。

(091.2/913.32/2)

十三 伊勢物語

①縦二・八糎 横十七・〇糎。②綴葉装一帖。表紙は緑色花鳥文様の緞子だが、傷みが激しい。③室町時代後期。④斐紙。武田祐吉博士の旧蔵で、一面八行書、和歌は二字下げ二行分かち書き。全体に書入が多い。武田本系統本文、奥書を有する。また、細川幽斎の「此物語依興山上人応其所望以所持本定家卿自筆書写之同遂校合蓋可謂証本者乎」天正十八年正月五日 玄旨 在判」との奥書もあり、幽斎筆本の転写本と思量される。本学図書館デジタルライブラリーにて公開中。

(091.2/913.32/3)

十四 伊勢物語

①縦三四・二糎 横三三・八糎。②袋装四ツ目綴一冊。表紙は無地青色で、題簽に「伊勢物語 全」とある。③江戸時代後期。④楮紙。⑤武田祐吉博士の旧蔵。安政四年に「須賀廼屋」と号する人物によって書写された。見返しに皇室と藤原氏の系図、惟喬親王と在原業平の履歴、業平の略年譜を記す。巻頭には『伊勢物語』収載歌の初句を掲げた一覧がある。『伊勢物語體腦』から『勢語通』まで十九本の註釈を、北村季吟の『源氏物語湖月抄』のように、頭註と傍註を併用した体裁で、詳細に掲げるほか、朱雀院塗籠本との本文や構成の相違を朱筆で示す。

(096/913.32/1)

十五 伊勢物語

①縦一九・四糎 横十三・七糎。②袋装四ツ目綴一冊。表紙は薄代楮色で、梅花等の文様を散らす。③江戸時代後期か。④斐楮混漉。⑤外題は伊勢物語（雲紙の題箋）。旧子爵水野家の旧蔵。内題はなし。墨付三五丁。遊紙前後各一丁。『伊勢物語』に存する全ての和歌を、二行分かち書きで抄出したもので、散文はない。和歌にはところどころ濁点が付される。

(911. 138/6)

十六 越前切 伊勢物語

①縦二四・七糎 横十六・一糎。②掛幅装一幅（元来は冊子本であつたとされる）。③鎌倉時代末期。④雲紙を横にとつた斐紙。⑤『伊勢物語』九八段末から、九九段前半の部分が八行に亘り、書かれている。和歌は二字下げ、二行書。九九段初めの三行には、それぞれ、朱筆で「貞観六年三月右少将七年三月右馬頭十九年正月左近少将」、「元慶藏人頭」、「業平」と傍記がある。また、和歌の上部にも、朱筆で「古今」、「恋一」とあるが、朱の濃淡から、後者は、古い書き入れのものと見られる。箱書に「片桐石州函書□」、箱の裏には、「雲紙四半切号越前切」とある他、證札に、「兼好法師／とよみて／見すもあらず」、「雲紙四半切 号越前切」とある。伝称筆者は兼好とされるが、他の兼好自筆と比較すると、同筆ではない。

越前切の名称は、越前国に伝来した、あるいは越前守某の所持によるとされ、これまでに二十三葉が確認されている。本学図書館所蔵の越前切は、『古筆学大成』未収載の一葉である。

(貴三二三五)

【二、版本】

一 伊勢物語 覆刻整版本

①縦二七・二糎 横十九・一糎。②袋装四ツ目綴二冊。表紙無地茶色。③江戸時代中期。⑤上冊は初段から四八段まで、下冊は四九段から一二五段まで。本文は天福本系。料紙は色変わりのものが使用されている。嵯峨本は、角倉素庵が本阿弥光悦の協力を得て刊行した絵入の古活字本で、慶長十三年以降、幾度か刊行された。後に、古活字本を覆刻した整版本も刊行されているが、本書はその一つと思量される。デジタルライブラリーにて公開中。

(貴七八一〜七八二)

二 伊勢物語

①縦二四・九糎 横十八・三糎。②袋装大和綴一冊。表紙は茶色布目地文様。③江戸時代前期。④楮紙。⑤武田祐吉博士の旧蔵で、「滋野井文庫」の蔵書印が捺される。絵は二九図あり、構図は嵯峨本と一致し、朱、茶、緑でところどころ彩色がある。巻末に、「寛文十一年辛亥霜月吉日」の刊記がある寛文版本だが、胡粉で塗沫されている。天福本と武田本の奥書、業平や二条後の伝記、難語註に加えて、滋野井公澄の識語がある。それによると、享保十四年初夏、本書と冷泉為久蔵の伊勢物語と対校した旨が記される。滋野井家は転法輪三条家の支流で、神楽と故実を家業とする。

(913. 32/15)

三 新板絵入伊勢物語

①縦二六・一糎 横十八・九糎。②袋装四ツ目綴二冊。表紙は青色無地。③江戸時代中期。④楮紙。⑤上下二冊の絵

入刊本。上冊冒頭に「伊勢物語の作者」、「業平の伝記」、「伊勢の御の伝記」、「伊勢物語のよみくせ 上」、下冊冒頭に「伊勢物語のよみくせ 下」をそれぞれ掲げる。絵は上冊十三図、下冊十四図あるが、雲を用いて上下を分け、一面に異なる章段の図を配した箇所もある。「宝永貳年孟春吉日御幸町辺二条上ル二丁目 磯田太良兵衛」の刊記がある。

(913. 21/27/1~2)

四 伊勢物語

①縦二六・六糎 横十八・〇糎。二冊。②袋装四ツ目綴二冊。表紙は縹色雷文繫地。③江戸時代中期。④楮紙。⑤上下二冊の絵入刊本。題簽は上下ともに剥落しており、上冊にはうちつけ書きで、「伊勢物語 上」とある。「享保二十年 江戸日本橋南四丁目 須原屋四郎兵衛板」の刊記があり、「絵入伊勢物語」と同じ版木を用いて刷られたものと思量される。

(913. 32/17/1~2)

五 絵入伊勢物語

①縦二五・六糎 横十八・一糎。②袋装四ツ目綴二冊。表紙は薄青色地唐花文様。③江戸時代。④楮紙。⑤題簽には「新板絵入伊勢物語」とある。絵は上冊に五一図、下冊に七四図あり、それぞれの見返しに業平と二条後の挿絵がある。「嵯峨本伊勢物語」に比して構図数は多く、構図そのものも異なるものが多い。下冊末に「東都書肆 須原屋茂兵衛梓」とあり、江戸の書肆須原屋の刊行であることはわかるものの、刊年は未詳である。

(913. 32/9/1~2)

六 新註絵入伊勢物語改成

①縦二五・九糎 横十八・一糎。②袋装五ツ目綴二冊、表紙は柿渋。③江戸時代中期。④楮紙。⑤外題は新註絵入伊勢物語改成、内題はなし。上冊は初段から六五段まで、下冊は六六段から一二五段を収める。絵は上冊に十八図、下冊に九図。その他見返しに上冊は伊勢の御の伝記、下冊は在原業平の伝記を載せる。『伊勢物語』の本文および傍注は版面の三分の二程で、上部三分の一は、上冊では源氏歌仙絵抄、源氏香図、女歌仙絵抄、下冊には歌仙絵抄をそれぞれ配する。他に、旧蔵者によると思量される朱筆の書き込みがあり、下冊末には、「此刻本所々簡略有、雖補眞想猶有闕漏／丁酉孟春 重吉」の識語がある。書肆出雲寺和泉掾による刊行。なお、三冊三卷仕立の「伊勢物語改成」は、元禄十一年に刊行されているが、該本には、刊行年は記されていない。

(913. 32 / 24 / 1 ~ 2)

七 伊勢物語

①縦二五・八糎 横十八・一糎。②袋装四ツ目綴二冊、表紙は紺色地無地艶出。③江戸時代。④楮紙。⑤外題はナシ(空題簽あり)、内題は「伊勢物語上之巻」(伊勢物語上／伊勢物語下)。上冊は初段から四八段まで。下冊は四九段から百二五段までを収める。絵は各六図。下冊末には、「合多本所用捨也、可備証本」の条りを欠く武田本の本奥書を有する。版元は未詳。

(913. 32 / 28 / 1 ~ 2)

【三、古註釈】

一 伊勢物語抄

①縦十三・七糎 横二〇・七糎。②袋装四ツ目綴の横本一冊、表紙は朱色地無地の厚様。③江戸時代初期。④楮紙。

⑤ 打ち付け書きで「伊勢物語抄 完」の外題がある。内題は「伊抄」。「山門薬樹院蔵」の印があり、延暦寺の里坊のひとつ薬樹院に伝来したと思量される。「逍遙院殿」（三条西実隆）の説を引く他、漢籍や史書、古辞書を引用するなど、根拠を明らかにした上で、解釈しようとする姿勢が見られる。また、第二十二段では、武田本と天福本の本文の違いを示したり、第二十三段においては「けこのうつはもの」「けこ」を「笥子」ではなく、「家子」と解している。

（貴二〇三）

二 伊勢物語古注

① 縦二・九纏 横十五・三纏。② 袋装四ツ目綴一冊、表紙は濃茶色無地。③ 室町時代後期。④ 楮紙。⑤ 内題、外題ともにないが、小口書きに「伊勢物語」とある。小汀利得の旧蔵。各章段の全文を挙げた後に、註釈を掲げる。註釈の他、集付や校異、濁点を本文に加える。四十八段までで途絶している。

（貴五七九）

三 伊勢物語集註

① 縦二七・八纏 横十八・四纏。② 袋装五ツ目綴十二冊。表紙は紺色地に繫文様。③ 江戸時代前期。④ 楮紙。⑤ 外題は「伊勢物語集註」（一部剥落した冊がある）。一華堂切臨によって、慶安元年九月によって著され、承応二年三月に小嶋弥左衛門、市郎衛門によって刊行された。十二冊のうち一冊は題号や『伊勢物語』の諸本、諸註の解題や本書の成立事情が述べられる。本書は、当時、多く用いられた『伊勢物語闕疑抄』に存する誤写や相伝された内容の遺漏を指摘し、切臨の師乗阿が三条西実澄から相伝された「奥義」を中心として、愚見抄や惟清抄といった先行諸註を集めたものと、首巻に記される。また、『詩経』を根拠として伊勢物語を解釈した註釈が多いことが注目される。乗阿（天

文九年（元和五年）は時宗の僧、歌人で、号を一華堂と称する。もとは駿河国長善寺の住持であったが、のちに上洛、連歌師の里村紹巴と交わる一方、三条西公条、実澄から『伊勢物語』や『源氏物語』、『古今和歌集』を学ぶ。なお、本学文学部資料室には、「慶安五年三月板行焉／洛陽東洞院四条坊門下町開板」の刊記をもつ同書（913.32/Sa22。「葛廼屋文庫」（千葉葛野）の旧蔵、千葉葛野は江戸後期の歌人、国学者。本居春庭の門人）が所蔵されている。ともに『国書総目録』に未収載の伝本である。（貴六四三～六五四）

四 伊勢物語聞書

①縦二三・二纏 横十六・六纏。②綴葉装一帖。表紙は緑色地蛮絵文様の緞子。③室町時代後期。④斐紙。⑤外題はなく、内題に「伊勢物語聞書」とある。「文明庚午孟冬仲澣書写訖 夢庵子」の奥書がある。書写者の夢庵子は連歌師肖柏の別名。「一条禅閣」、「一禅御説」として一条兼良の説を多く引く。（貴一七一九）

五 勢語臆断

①縦二七・二纏 横二〇・一纏。②袋装五ツ目綴四冊。表紙は朱色地無地艶出。③江戸時代中期。④楮紙。外題は「勢語臆断 上之本」（上之末、下之本、下之末）。「四冊本書并外題共／契沖阿闍梨真筆」という、古筆家大倉好斎（古昔庵）の箱書がある。『勢語臆断』は、契沖によつて著された『伊勢物語』の註釈書で、元禄五年（一六九二）秋ごろ成立、その後、久しく写本で伝来し、享和二年（一八〇二）に刊行された。本書には、朱筆や青墨による書き入れや付箋の貼付、胡粉による塗抹が見られる。本学図書館には、本書の他一点（913.32/k i 68/1-（1））が所蔵されている。（貴二二五五～二二五八）

六 伊勢物語靈元院奥尽秘抄

① 縦十五・三糎 横二・二糎。② 袋装四ツ目綴四冊。表紙は緑色地無地の緞子。③ 江戸時代中期。④ 斐楮混漉。⑤ 内題、外題ともになし。靈元天皇によつて著される。靈元天皇は父後水尾天皇、兄後西天皇から歌道をはじめ諸芸學問を伝授されており、本書も一条兼良の『伊勢物語愚見抄』や細川幽齋の『伊勢物語闕疑抄』などの先行諸註および後水尾天皇、後西天皇の『伊勢物語』講釈に自説を加えて成立したと思量される。本書は、高松宮家旧蔵国立歴史民俗博物館本や宮内庁書陵部本、中院家旧蔵京都大学図書館本が知られるが、國學院大學図書館本は、『国書総目録』未採録の伝本である。
(貴一五四一～一五四四)

七 伊勢物語抄

① 縦二八・五糎 横一〇・〇糎。② 袋装四ツ目綴一冊。表紙は香色地無地。③ 江戸時代中期。④ 楮紙。⑤ 外題に「伊勢物語抄」とある。内題はない。行間や鼈頭に註釈が書き入れられている。奥書によれば、本書は延宝九年の秋、長年『伊勢物語』に心を寄せていた「梶若氏松響軒(杉若柳求)」なる人物が、江戸幕府の伝馬町牢屋敷の長官(囚獄)で、歌人、連歌師、国学者としても知られた石出帯刀吉深の助力によつて得た「此書之秘伝」を、後世に伝えるために著した自筆草稿とされる。「梶若氏松響軒(杉若柳求)」については未詳。
(貴二八四二)

八 勢語七考

① 縦二八・四糎 横六・二八米。② 卷子装一軸。表紙は青地に金糸花菱繫文様の緞子。③ 江戸時代中期。④ 楮紙。⑤ 箱書に「縣居翁真洌書」、外題には「伊勢物語通釋 真洌翁真筆」とある。内題はなし。勢語七考は、江戸時代中期

の国学者賀茂真淵が著した伊勢物語の評論で、寛保元年（一七四一）ごろ成立とされる。「田安府芸台印」の蔵書印があり、真淵が仕えた徳川御三卿の一つ、田安德川家に伝来したことがわかる。「前書き」の他、「物語てふ事」、「いせ物かたりと名付たる事」、「伊勢の御のかきたるにあらざる説の事」、「業平の自記ならぬ事」、「時代のたかへる事」、「作れる時世の事」、「むかし男てふ事」の七項目から構成される。
 （貴四二四三）

九 伊勢物語拾穂抄

①縦二六・八糶 横十九・二糶。②袋装四ツ目綴四冊。表紙は薄青色の無地。③江戸時代中期。④楮紙。⑤伊勢物語拾穂抄は、江戸時代前期の歌学者北村季吟の著作で、寛文三年（一六六三）以前に成立、延宝八年（一六八〇）刊行。本書は「延宝八庚申年仲秋吉辰」の刊記のある初刊本である。「源頼庸」の蔵書印があり、薩摩藩出身の神道家で、神宮大宮司を務めた田中頼庸の旧蔵であることがわかる。なお、本学図書館に、『伊勢物語拾穂抄』は該本の他、913. 32 / k i 6 8 / 1 - (1 ~ 4)（四冊・朱点有り）、913. 32 / k i 6 8 / 1 - II - (2)（二冊・文化二年六月の補刻）の二点が所蔵されている。
 （913. 32 / k i 6 8 / 1 - (1)）

十 伊勢物語古意

①縦二五・八糶 横十八・一糶。②袋装四ツ目綴六冊。表紙は青色地布目型押。③江戸時代後期。④楮紙。伊勢物語古意は、勢語七考を著した後、賀茂真淵が著した伊勢物語の註釈書で、宝暦三年（一七五三）ごろ成立。本書の刊行年は不明。全体に朱筆の句点や、傍点・傍線、傍記や異本註記が詳しくなされている。「此注解甚不宣」、「此注イカ」といった真淵の註解への批判的言辞が間々見られる他、例証歌等にも、伊勢物語古意に対する自らの見解を示す箇所

が見られる。本学図書館には、この他、巻二までの零本（二冊・913. 32 / Ka41-2 / 2-（1））がある。

（913. 32 / ka41-2 / 1）（1-6）

十一 伊勢物語

①縦二八・六纏 横二〇・〇纏。②袋装五ツ目綴二冊。表紙は縹色地無地。③江戸時代か。④楮紙。⑤外題には「伊勢物語 上（下）」とあるが、実際は『伊勢物語』の註釈書である。上冊は初段から四八段まで、下冊には四九段から一二五段までを収める。奥書や識語はないため、書写年代の特定は難しいが、近世の著作と思量される。

（913. 32 / 18 / 1-2）

十二 伊勢物語

①縦二九・二纏 横一九・一纏。②袋装四ツ目綴一冊。表紙は砥粉色地紺色棚雲文様。文様は点描。③江戸時代中期。④斐楮混漉。外題には「伊勢物語上下」とあり、元来は二冊だったものを合綴したもの。明暦元年七月二十七日から同年八月二九日まで行われた、後水尾院の『伊勢物語』講釈を聴講者の一人が書き留めたもので、竈頭にも書き入れが存する。第一二五段の講釈はないが、これは「終焉の段を読まないのが宮中で勢語講釈の作法であつた」³からとされる。後水尾院は数度に渡り、宮中で『伊勢物語』の講釈を行っているが、明暦元年七月から八月にかけての講釈は聞書等の伝本が少なく、該本の他には、京都大学図書館蔵本および昭和二六年九月発行の「一誠堂時報」第五号に紹介された本が知られるのみである。

（913. 32 / 10）

十三 伊勢物語新釈

①縦二七・〇糶 横十八・九糶。②袋装四ツ目綴六冊。表紙は茶色地無地。③江戸時代後期。④楮紙。⑤外題は「伊勢物語新釋一（一〇六）」、内題は「伊勢物語新釋」／「伊勢物語新釋一の卷（一〇六の卷）」。二面十行（序は七行）。東京帝国大学史料編纂官や國學院大學、立正大学の教授を務めた井野辺茂雄氏の旧蔵。『伊勢物語新釋』は本居宣長の門人藤井高尚の著作で、文化九年九月十五日に成立した。本書は土佐の国学者鹿持雅澄の旧蔵で、天保四年十月から十一月にかけて、「北原氏本」等によつて校合した書き入れがある。また、竈頭や行間に朱や墨、藍による書き入れや雅澄の署名の入った貼紙がある。本学にはこの他、図書館と文学部資料室に各一点（913・32 / Ke21）が所蔵される。このうち前者は、文政十年に刊行された「奴弓能舎」（本居宣長の門人、長谷川菅緒）蔵本をもとにした版本だが、上田秋成の『伊勢物語』註釈書である『よしやあしや』（△で示す）と賀茂真淵の『伊勢物語古意』（□で示す）を書き込んでいるのが特徴である。第九段の「八つ橋」の形状については、両書から図を写したものを、貼付している。（貴・IV30）

十四 伊勢物語題号考

①縦二五・七糶 横十八・一糶。②袋装四ツ目綴一冊、表紙は砥粉色地浮線綾文様。厚手で具引風の加工がなされている。③江戸時代。④楮紙。⑤外題・内題ともに伊勢物語題号考。賀茂重誠による天保十五年八月の序文があるものの、刊行年代は未詳。墨付三二丁。著者賀茂（松田）直兄は賀茂季鷹の門人である。「伊勢物語」という作品の題号を中心とした論考で、男女の仲を主とする「妹背物語」説や、伊勢の斎宮との情交を主題とする段を冒頭に置く伝本（狩使本）から、「伊勢物語」とする説、上田秋成が唱えた在五中将物語の別称を「伊勢物語」とする説などを退け、

読者に対する謙退、滑稽を意味する「令笑物語」に由来する説を採る。また、後半では恋歌の意義を『詩経』に拠りながら説く。一部、朱墨による訂正がある。

(913. 32 / ka41 / 1)

【四 絵本、絵巻】

一 伊勢物語絵巻

① 縦二五・一糶、横十七・七米（上巻）、十五・四米（下巻）。② 卷子装二軸、表紙は青緑地の錦繡緞子。③ 江戸時代初期。④ 斐紙。⑤ 「紅梅文庫」の蔵書印から、前田善子氏の旧蔵であることがわかる。武田祐吉博士の所蔵を経て、本学図書館に収められる。多くの絵巻は詞書（本文）とそれに合った絵とが交互に展開するが、本絵巻は絵の中に詞書が入り込んだ形をとる。また、絵の構図は、刊行後に伊勢物語絵の規範となった、嵯峨本伊勢物語とは大きく異なる。全体に大きな錯簡があり、八三段以降の絵はない。本学図書館デジタルライブラリーにて公開中。

(貴一八七四～一八七五)

二 伊勢物語

① 縦二三・三糶 横十六・七糶。② 綴葉装三帖。表紙は金と藍色の市松模様緞子。③ 江戸時代前期。④ 斐紙。⑤ 武田祐吉博士の旧蔵。本文は天福本系。上冊は、初段から二三段の途中まで、中冊は、二三段の続きから七一段まで、下冊は、七二段から一二五段まで。絵は嵯峨本と同じく四九図からなる。本学図書館デジタルライブラリーにて公開中。

(貴一九二〇～一九二二)

参考文献

- 春名好重氏編著『古筆大辞典』淡交社 昭和五四年
 井上豊氏解説「勢語七考」『賀茂真淵全集 第十六卷』続群書類従完成会 昭和五六年
 大津有一氏『伊勢物語古註釈の研究 増補版』八木書店 昭和六一年
 小松茂美氏『物語・物語注釈1』（古筆学大成第三三卷）講談社 平成四年

註

- (1) ジョシユア・モストウ氏（岡野佐和氏訳）「みやび」とジェンダー——近代における『伊勢物語』（ハルオ・シラネ氏、鈴木登美氏編『創造された古典 カノン形成・国民国家・日本文学』所収 新曜社 平成十一年）では、明治以降の受容を中心に、前近代も含めた『伊勢物語』の「古典化」、「正典化」の諸相が、通時的にたどられている。なお、同書所収のハルオ・シラネ氏「総説 創造された古典——カノン形成のパラダイムと批評的展望」、同「カリキュラムの歴史的変遷と競合するカノン」でも、『伊勢物語』についての言及を見ることが出来る。
- (2) 本古典籍については、笹川勲「國學院大學図書館蔵『伊勢物語』（武田本）の本文」（『國學院大學 校史・学術資産研究』第二号 平成二二年三月）でも、書誌と略解題を掲げ、静嘉堂文庫蔵本（山田清市氏編の古典文庫本による）との校異を付している。
- (3) 大津有一氏『伊勢物語古註釈の研究 増補版』四八三頁（八木書店 昭和六一年）。
- (4) 國學院大學図書館所蔵の伊勢物語絵巻や奈良絵本伊勢物語については、近年、針本正行氏を代表者とする「物語絵巻の本文とその享受に関する総合的研究——國學院大學所蔵本を中心として」（科学研究費補助金基盤研究B・平成十九年〜平成二十一年）において、翻刻や構図の対照が行われた。詳しい解題や絵の特徴は、本科研の各年度の報告書に譲りたい。また、同研究プロジェクトの研究成果を総括した『物語絵の世界』（針本正行研究室編・平成二二年）には、鈴木裕子氏および笹川勲の論考が収められる。直近では、針本正行氏に「伊勢物語絵の表現——國學院大學図書館所蔵『伊勢物語絵巻』二九段を中心として」（『國學院雜誌』第一二三巻第十号 平成二四年十月）がある。

【付記】

本稿を成すにあたっては、國學院大學図書館に多くのご配慮をいただきました。記して御礼申し上げます。